



協議会 だより

■発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会/会長：高見澤忠明

■編集 総務広報部会 広報委員

謹賀新年

本年もよろしくお祈りします！



第五地区の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年は「第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会」の事業に格別のご支援をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

昨年度は観測史上記録にないような、竜巻、ゲリラ豪雨、大型台風、超高温などが全国各地を突然次々と襲い、甚大な被害を被り、未だ仮設住宅で生活をされている方がたくさんいらっしゃいます。このような突然襲ってくる災害に、如何に災害から地域住民の身を守るかが、今私どもに突きつけられた課題の一つではないかと思えます。

また、少子高齢化社会に向けた「地域助け合い事業」は、第一、第二、第三、第五地区合同で、昨年7月から本格的に稼働しました。第五地区の皆さまも、掃除・洗濯及び食事づくりなどの「家事援助」や病院などへの送り迎えの「福祉移送」を利用する高齢者の方が増えております。

本年は「自分たちのまちは、自分たちでつくる」の理念の下に、地域の皆さまと共に高齢者の方などが安心して住める「地域福祉活動計画」を策定して活動すべく取り組んで、安心・安全なまちづくりを進めてまいります。どうか皆さまのお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

北陸新幹線の金沢延伸を2015年3月に控え、新しい駅ビルの工事が進行しております。観光客に如何に長野に来てもらうかなどで、北陸の市町村と観光振興策の連携した取り組みが本格的に稼働しております。私たちの第五地区は長野駅の地元でもあり、賑わいを取り戻すことが期待されます。

本年もたくさんの課題がありますが住民の皆さんと、安心・安全なまちづくりに積極的に取り組んでまいります。どうか皆さまのご支援・ご尽力を賜り第五地区が更に発展しますようご協力の程お願い申し上げます。皆さまにとって良い年でありますよう祈念いたします。 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会 会長 高見澤 忠明

健康福祉環境部会（環境委員会）

裾花川河川敷清美

～きれいになりました～

周りの木々が色づき始めた11月10日（日）に住民の皆さんと八十二銀行・商工会などの応援を得て、今年も6月9日（日）に次いで2回目の清美作業を実施しました。今にも雨が降りそうな天候の下、裾花川相生橋からあやとり橋の間を3グループに分かれて雑木・雑草などの刈り取り作業などを午前8時から開始しました。

夏の間雑草は勢いよく成長し、上流には最近の豪雨で上流から流れてついた流木が打ち上げられ、下流はアレチウリが繁茂し、これを片づけたり刈り取るのに苦心しておりました。

あいにく天気予報通り午前9時頃には雨が降り出し、それでも皆さん作業に熱中されておりましたが、9時半頃に中止を余儀なくされました。

今回作業した箇所は見違えるほどスッキリときれいに清美されました。



柏崎刈羽原子力発電所合同視察研修

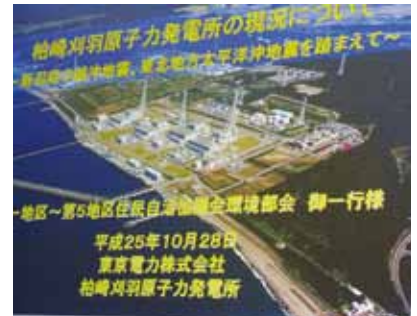
～安全対策への取組み～

第一から第五地区の環境委員による合同視察研修が、10月28日（月）に行われました。今年は第一地区が幹事で50名の参加の下、柏崎刈羽原子力発電所を視察研修をしました。

柏崎原発は、新潟県柏崎市と刈羽村にまたがる東京ドーム90ヶ分の敷地に1978年12月に着工、1984年11月に運転を開始し、1,100MW×5基と1,356MW×2基の1～7号機を有し、それまでのカナダを抜いて世界最大の原子力発電所となり、協力企業681社と東京電力社員合わせて5,100名が携わっている発電所です。

厳重に警備されている発電所は、あらかじめ申請した書類と身分を証明するものと照合した後、入館を許可されました。まずホールで2011年3月11日の福島第一原発の事故発生を教訓に、現在実施している安全対策を中心に広報部 小池課長から説明を受けました。次に館内に設置されている原子炉建屋内の原子炉圧力容器・格納容器などの1/5の模型で構造の説明を受けた後、構内をバスで巡回し、津波による浸水を防ぐために敷地内の海側に海拔15mの新設された防潮堤、津波が防潮堤を越えた場合の原子炉建屋内に浸水しないための防潮壁・防潮板を見学しました。そして浸水を防げなかった場合など、電源と冷やす機能を確保するための電源車が23台、空冷式ガスタービン発電機2セット、緊急用高圧配電盤、地下軽油タンク3基が配置され、注水と冷却手段として、消防車42台、代替海水熱交換器車7台、容量2万トンの貯水池など設置されている広大な敷地内を巡回して見学しました。

施設面では安全対策が次々と施されておりますが、使用済み核燃料の再利用・放射性核廃棄物の処理、廃炉に向かっての対策などは進んでおらず、原発を今後ともベース電源として供給していく場合には早急に検討されるべきではないでしょうか。



なんだろう？自分らしい生き方って

～男女共同参画社会の実現に向けて～



生涯学習委員会は男女共同参画セミナーとして11月19日（火）に中御所公民館に4コマまんが「小さなジェンダー」でお馴染みの段 丹映子さんをお迎えして、住民の方約50名が参加して講演会を開催しました。

自分の体験したことをまんがにしてお話いただきました。男女共同参画は言われたらずいぶんたつが、捉え方は人によって色々である。男性・女性が持つ能力や才能を性別によって役目を決めつけしないで、その人その人の持ち味を大事にしながら、仕事もプライベートも大切に充実して暮らせるような社会を築いていくのが男女共同参画ではないか。そのためには自分らしさを念頭において、男の人も女の人も自分自身何をどう感じているか、本当はどんな考え方をしているのかを一寸立ち止まって自分の心に問い直してやる必要があるのではないか。その時に必要なことは自分にとってどうなのか、価値のあることが無いことか、大切なことかそうでないか、役に立つことかそうでないかという判断が必要だが、それが全てではないということも心の中に留めておかななくてはならない。

よく「あんたのためだから言うんだよ」と聞くと、あんたと私が同じ価値観で生きているとは限らないので、ひとり一人違った受け止め方、感じ方をしている訳だから押し付けにならないように気を付けなければいけないなど、身近な例をまんがを通して分かりやすくお話しいただきました。



各町からのお知らせ

中御所
より

中御所 文化芸能祭



伝統ある中御所文化芸能祭が11月9日（土）～10日（日）中御所公民館で盛大に開催されました。

この文化芸能祭は各サークル活動の発表の場として、平成6年に県民文化会館ホールで開催されており今回20回目を迎えます。作品展示は中御所の観音寺・四万八千日観世音縁日に住民の皆さんの作品を展示していたのが始まりで、現在は中御所公民館で統合して行われております。

1階の展示場には、皆さんが丹精込めて作り上げた、パッチワーク、アレンジフラワー、絵画、写真、盆栽、子どもの絵・工作などを展示して、見た人は感心して鑑賞しておりました。2階のホールでは、ハーモニカ・舞踊・太極拳・大正琴・カラオケなど各同好会で日頃訓練を積んだ成果を披露されました。それぞれ見事で、中にはプロ顔負けの腕前で観衆を釘付けにし、拍手喝采を浴びる方もおりました。中でも平瀬姉弟のハーモニカ演奏は、小1の悟郎君のハーモニカに小3の容子姉さんのギター伴奏の見事な演奏で、観衆を魅了しておりました。

裾花小学校合唱部43名の生徒さんによる「秋の歌シリーズ」は美しいハーモニーで実力の高さを披露してくれました。裾花小学校合唱部は、先日行われたNHKコンクールの全国大会で奨励賞を受賞し、SBC音楽祭の成果で全国大会に出場するそうです。また、恒例になっている長野市交通政策課の三浦・樋口コンビによる腹話術には皆さん笑いながら熱心に見入っておりました。



西澤公民館長は「中御所には芸達者や驚くほどの才能を持った方が大勢住んでおられ、今年も皆さんに日頃の成果をご披露いただき、改めて感心し感動しました。次回も盛大に開催し、皆さまにご披露し鑑賞していただきたいと思います。」と感激しておられました。



岡田町
より

岡田町 文化祭

岡田町文化祭が11月9日（土）～10日（日）に岡田町公民館で町民の皆さんの一年間の労作された作品を展示発表され、大勢の住民の皆さんが鑑賞に訪れておりました。

展示作品には、社会部書道教室の作品、育成部の習字、生け花、パッチワーク、手芸、写真、ちぎり絵、子どもの絵など数多くの作品が展示されました。

また、松田和広氏の戦前・戦後の戦争に関する手紙・写真・書類など数多くの貴重な品々が展示されました。たまたま松田氏が会場に訪れた際に、居合わせた町民の方に、15歳で出征された当時の様々な様子、出来事など資料を見せながら解説してくれました。当時は未だ幼くてよく判らない世代の人たちにも生々しく語られて、みんな真剣に聞き入っておりました。

また、高野公民館長は、岡田町の由来、歴史、昔の出来事など、昔の「公民館報」を基に解説してくださり、皆さん感心して聞き入っており、一種の社交場となり各年代の方々の和やかな歓談の場にもなっておりました。

高野公民館長は「今年も盛況に開催できました。松田氏の戦時の話には感銘をうけました。次回もより以上に盛大に開催したいと思います。町民の皆さんも作品をこの会場で展示いただきますようお待ちしております。」と語っておりました。



「ゲートキーパー」ってご存知ですか？ ～守ろう大切ないのち～



最近「ゲートキーパー」という言葉をよく耳にし、注目されています。

「ゲートキーパー」とは、自殺の危機を示すサインに気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことで、言わば「命の門番」とも位置づけられ、家族や地域、職場、保健、医療、教育の場面など、誰もがゲートキーパーになれます。

長野県では、1年間に約500人が自殺で亡くなっています。自殺の原因として、「健康問題」「経済問題」「家庭問題」が多く挙げられています。その中で最も多いのが「健康問題」です。健康問題のうち、うつ病を発症している人が多いことが分かっています。

自殺を考えている人も、一方では「生きたい」という気持ちとの間で激しく揺れ動いており、不眠や体調不良など自殺につながるサインを示しています。こうしたサインに周囲が気づき、支援の手を差し伸べることで、多くの自殺は防ぐことができます。

ゲートキーパーの活動

①気づき

家族や仲間の変化に気づいて声をかける

②傾聴

本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける

③つなぎ

早めに専門家に相談するよう促す

④見守り

寄り添いながら、じっくり見守る

こうした「サイン」に気がつきましたら、西部保健センター（☎224-1101）か、県内保健福祉事務所・保健所にご相談ください。まずは、声をかけることから始めてみませんか。

たすけあい事業の「協力会員を募集」しています！

～どうかご支援をお願いします～

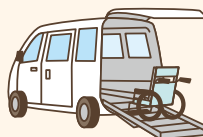
「人間に備わっている他人のために……」のその気持ちは誰もが持っています。
どうかあなたの時間を貸してください。

*活動内容は、「家事援助」や「福祉移送」車両の運転です。

家事援助は、掃除・洗濯及び食事づくりなどです。

福祉移送については、講習受講等の条件があります。

*熱意のある方であれば、年齢や経験は問いません。



詳しくは、コーディネーターにお問い合わせください

電話 227-3030 社会福祉協議会地域福祉課内 山田・浅倉まで

事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせ下さい。

〒380-0835

長野市大字南長野新田町1485番地1

もんぜんぶら座8階 第一から第五地区合同事務所

☎ TEL 262-1512 (FAX共通)

✉ メール dai5@feel.ocn.ne.jp